

記憶の刻

松岡隆子

泉辺に記憶の刻のたゆたへり
旅遠し白雲木の実のあをく
よき距離に流れて鴨の涼しけれ
隠しをるつもりの鳩の浮巢かな
信号をもう駆け出して捕虫網
一木の高きに執し蝉の殻
蝉声のぶつかつて来る背中かな

ある時のみんなに耳塞ぎたき
降る雨を弾きて秋の蝉時雨
樹の花のしづかに降れる広島忌
八月の蝶の一途に对岸へ
すぐそこの森が遠くてつくつくし

先日夕食の支度をしていて突然右手の中指が曲がったまま伸びなくなり激痛が走った。診察の結果腱鞘炎とのこと、しばらく右手が使えず仕事にも支障をきたした。数日のブランクをまだ取り戻せないでいる。

新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない。医療現場の逼迫状態には心が痛む。更に一人一人の我慢が求められている。自粛生活の中でも俳句はできる。それぞれに自分を励ましながら俳句を詠み継いでいってほしい。今度こそが何時になるか甚だ心許ないが、句会再開までいま暫く慎重を期したい。